

STEALTH MODE ステルス枠

フルハイトドア®

FULL HEIGHT DOOR®

施工手順書⑧-1

マルコ(MARCO)

3枚引込み戸(上吊・非連動)

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
 ※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
 ※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事

①-1.木工事・標準仕様 / ①-2.木工事・準耐火仕様

②クロス・塗り壁工事

③扉・金物の取付

③-1. 開き戸

③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)

③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)

③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑨)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、物入4枚・6枚開き戸

④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊)

⑥ヴェトロ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイングドア、サイドガラスユニット

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

⑨-1. スイングドア ⑨-2. 片引き戸(上吊) ⑨-3. 2枚違い戸(上吊)

施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

☐ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動)

forステルス枠

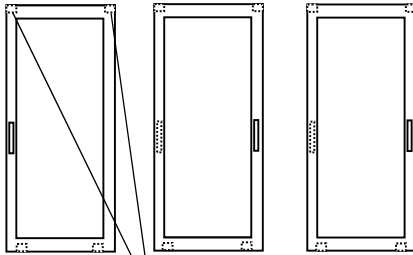
【マルコ専用】

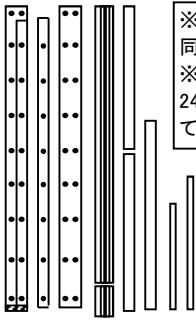
施工手順書2021/1作成

2022/8更新

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同梱品				
部材	数量	備考					
3枚引込み戸	3枚	引手取付済み(スリット手掛けタイプはなし)					
		ケーシング取付済み					
		戸車取付済み					
							
ケーシング (旧名称: 固定カップ)							

下地枠			同梱品	施工手順書			
部材	数量	備考					
縦枠下地	1本						
中方立下地	1本						
片方立下地	1本			(注) 3枚引込み戸・非連動タイプの上ローラーには、跳ね上がり防止ナットが付いておりません。 万一、跳ね上がり防止ナット付きを使用した場合、上部ストッパーに干渉して上部ストッパーの機能を果たさない恐れがあります。			
上枠下地	2本	2本に分割されています					
開口定規	1本	下地枠内(狭)寸法用					
	2本	下地枠内(広)寸法用 (2本に分割されています)					
見切縁	1本	ラフカット					
隙間隠し材	1本	上枠勝ち納まりは無し					
 ※下地枠外寸法開口定規は同梱されておりません。 ※上枠下地及び開口定規は2421mm以上の場合2分割されています。							

☐ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

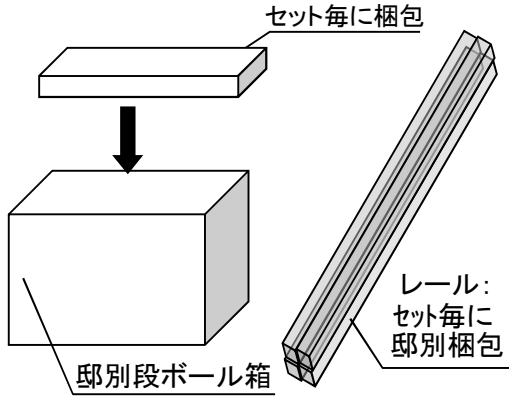
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2022/8更新

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

下地金物箱			上レール	床付レール(面付)	床付けレール(埋込V)	上ローラー
部材	数量	備考		※面付レール仕様の 場合に使用 	※埋込Vレール仕様の 場合に使用 	(注)非連動専用 
金物箱	1式		3本(付属ビス含む)	3本	6ヶ	
レール	1式		エンドプレート	化粧キャップ	上部ストッパー	調整ビス
 セット毎に梱包 レール: セット毎に 邸別梱包 邸別段ボール箱						
			2ヶ(ビス2本付)	6ヶ	6ヶ	H24 14本

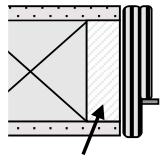
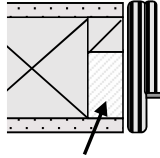
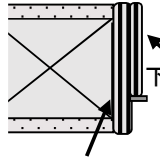
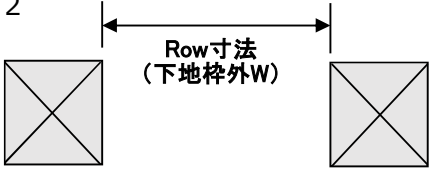
□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

forステルス枠

施工手順書2021/ 1 作成

2022/8 更新

1-1 施工前の確認事項

① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と、高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。 （縦枠下地は、床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）	※ 1  隙間がある	 隙間がある	 隙間なく固定	
	×	×	○	
	※ 2  Row寸法 (下地枠外W)			
	図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認			
注意	※ 1：下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。 ※ 2：施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。 ※ 開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。			

1-2 施工前の確認事項（床付レール（埋込V）取付の場合）

① 床付レール（埋込V）を床に取り付ける場合、右図の所定位置に、床付レール（埋込V）を埋め込む溝を確保してください。縦枠面から片方立下地面まで、巾9mm深さ6.5mmの溝を3本確保してください。			
	床付レール（埋込V）の取り付け溝位置 ※クロスの場合24.5mm、塗り壁の場合27.5mm	床付レール（埋込V）の取り付け溝断面	床付レール（埋込V）の納まり図
注意	※床付レール（埋込V）がきつく入らなかったり、緩くて外れてしまわないように、床付レール（埋込V）を埋め込む溝の巾は指定の寸法9mmを守ってください。また、段差が出来ないように、溝の深さも指定の寸法6.5mmにしてください。 ※床付レール（埋込V）を埋め込む溝は、縦枠面から片方立下地面までとなります。縦枠面に段差があるため、手前の溝の初めの位置が異なりますので、縦枠を仮合わせてご確認ください。		

□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

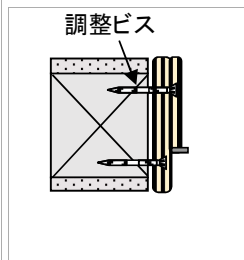
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

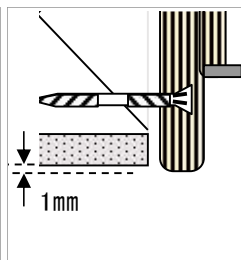
2022/8更新

2 縦枠下地の取り付け

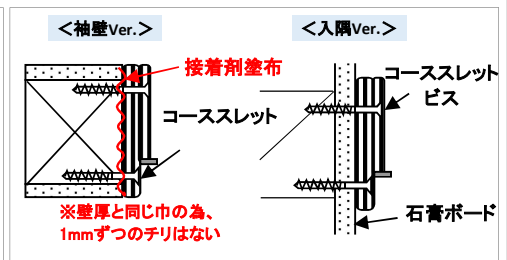
- ① 縦枠下地を柱に固定します。
(向って左側は下地断面が厚い方、右側は薄い方)
枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら、同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。(縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます)
※準耐火納まりの場合、1mmのチリはありません。



調整ビスにより枠を固定

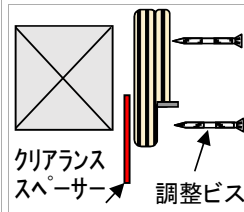


壁厚より1mmずつチリが出る

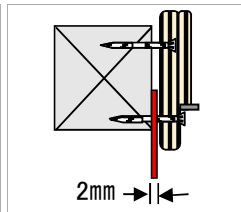


【準耐火納まりの場合】
コーススレットビスで固定(2mmクリアランスは無)入隅の場合、石膏ボードの上に縦枠を取付け

- ② 取り付けの際に、調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に挟んで、ビス固定を行ってください。(図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm)
また、縦枠下地の裏側下部にはあらかじめ2mmのパッキン材がついています。
※準耐火納まりの場合、2mmパッキンは不要です。



クリアランス
スペーサーを挟む



2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定



予め縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている

注意

- ※ 縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取り付けられていますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
※ クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
※ 躯体がスタッドの場合は、石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材(15mm以上)を入れてください。
※ 調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。

3 片方立下地の取り付け

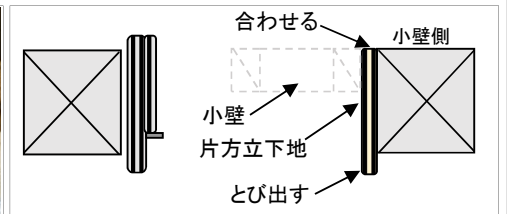
- ① 片方立下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にて躯体に固定します。(小壁側の壁面と下地材を合わせます)



下地裏面に接着剤全面塗布



下地表よりビス固定



片方立下地の取り付け位置
(小壁側の壁面と下地材を合わせる)

注意

- ※ 下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許公差をお奨めします)
※ 下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
※ 下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

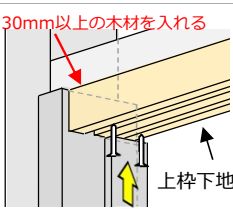
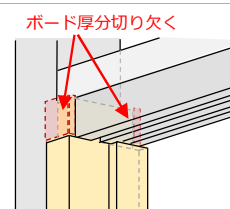
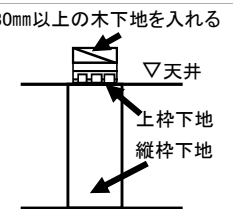
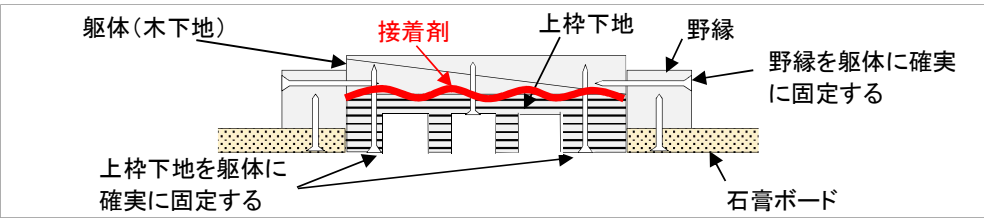
□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

forステルス枠

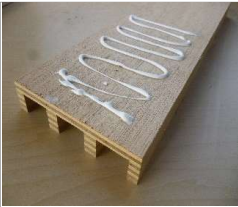
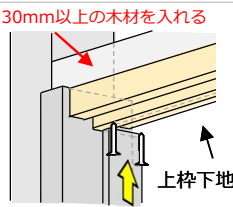
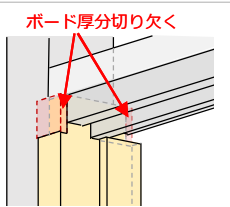
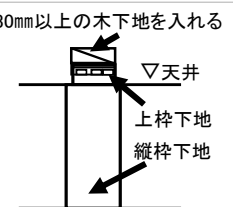
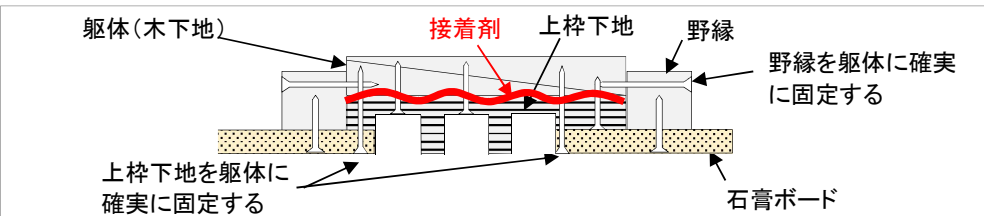
施工手順書2021/1作成

2022/8更新

4-1 上枠下地の取り付け（上枠勝ち納まりの場合）

① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります) 上枠下地の裏側には、30mm以上の木材を入れてください。		 30mm以上の木材を入れる 上枠下地	 ボード厚分切り欠く	 30mm以上の木下地を入れる ▽天井 上枠下地 縦枠下地
	下地裏面に接着剤全面塗布	上枠を縦枠勝ちに納め 下地表よりビス固定	枠下地の天井 のみ込み部分は ボード厚分欠り欠く	上枠下地の裏には 30mm以上の木下地を入れる
② 野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してしてください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。				
	石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁に石膏ボードを取付ける			
注意	※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビス系をお奨めします) ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。 ※上枠下地の裏側には、必ず30mm以上の木材を入れてください。 ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロスの割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。 ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。			

4-2 上枠下地の取り付け（天井ボード勝ち納まりの場合）

①	上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります) 上枠下地の裏側には、30mm以上の木材を入れてください。				
	下地裏面に接着剤全面塗布	上枠を縦枠勝ちに納め 下地表よりビス固定	枠下地の天井 のみ込み部分は ボード厚分欠り欠く	上枠下地の裏には 30mm以上の木下地を入れる	
②	野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してしてください。その後、石膏ボードをレール溝に合わせて野縁と上枠下地に固定してください。				
		石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁と上枠下地に石膏ボードを取付ける			
注意	※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビス系をお奨めします) ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。 ※上枠下地の裏側には、必ず30mm以上の木下地を入れてください。 ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁割れの原因となります。 ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。				

□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

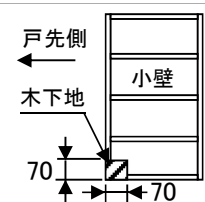
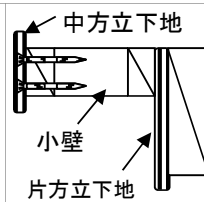
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2022/8更新

5 中方立下地の取り付け方

- ① 戸袋部分に小壁を立て、中方立下地を小壁に接着剤・取り付けビス(現場手配)併用にて固定します。(中方立下地は、床仕上げ面から上枠下地の下端までの長さです)
 その際に金物を固定する為、小壁面から70mm、床面から70mmの範囲に必ず木下地を入れてください。

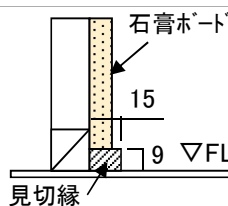
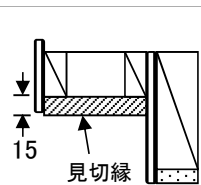


下地裏面に接着剤全面塗布

小壁を立てて
中方立下地の取り付け

小壁に70mm四方の木下地を入れる

- ② 戸袋側の小壁に沿わせて、見切縁を接着剤・タッカー(現場手配)併用にて取り付けます。見切縁の15mmの面に石膏ボードを載せてください。(石膏ボードは12.5mmの設定なので、2.5mmのチリが出ます)



見切縁の取り付け

注意

※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビス系をお奨めします)

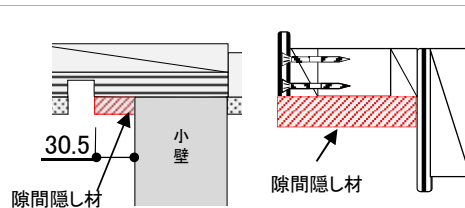
※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。

※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

※見切縁は2本同梱されていますので、長さが足りない場合は継ぎ足してください。

6 隙間隠し材の取り付け(天井ボード勝ち納まりの場合のみ)

- ① 天井ボード勝ち納まりの場合は、上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を現場で正寸カットして取りつけてください。



上枠下地のレール溝と小壁の間に
隙間隠し材を取りつける

※クロスの場合は30.5mm、塗り壁の場合は33.5mm

注意

□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

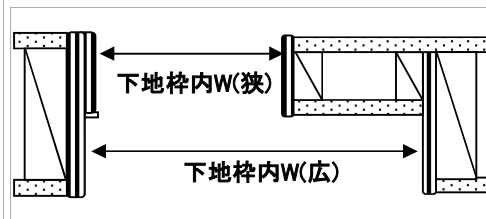
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2022/8更新

7 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

- ① 下地枠の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規(2種類)にて下地枠内W寸法の確認をしてください。(狭い方と広い方の両方共)
調整が必要な時は、手動ドライバーで縦枠下地の出し入れを行ってください。

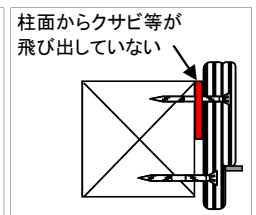
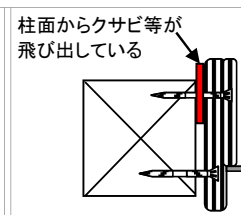


下地材内に(狭)と(広)の開口定規にて開口を確認

下地枠内(狭)

下地枠内(広)

ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れ、固定してください。



クサビまたは**パッキン**の表裏に接着剤を塗布し、
縦枠下地と躯体の間に差込む

クサビまたはパッキンの入れ方
×

クサビまたはパッキンの入れ方
○

注意

※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。
※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間に、レーザー等で立ちを見ながら行ってください。
※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。
※開口定規は2種類ありますので用途別に使い分けてください。(狭)・(広)

8 幅木施工

- ① 幅木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)



接着剤全面塗布

下地の幅木欠き込み部分
(7×30)

下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け

注意

※出荷時にはシングル幅木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の幅木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。
(幅木厚7mm以上の対応は行っておりません)

□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2022/8更新

9 縦枠クロス施工【縦枠袖壁納まりの場合】

- ① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

下地処理が完了した後で
クロスを貼ってください。

石膏ボード 縦枠 — : パテ : メッシュテープ	ジョイント部をまたいで メッシュテープを貼る	ビス穴、メッシュテープ 部、及び縦枠の木口面全体 にパテを塗る(下塗り、上塗り)
枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る	枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります	

注意

※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。

9' 縦枠クロス施工【縦枠入隅納まりの場合】

- ① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。
縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスを貼る際は縦枠の木口面をヘラ等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。

石膏ボード 縦枠 — : パテ 【標準仕様】	石膏ボード 縦枠 — : パテ 【準耐火仕様】	
ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る (木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る) ※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください		
壁面 ヘラ 枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る	壁面 枠の入隅部に貼る際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼ると壁面のクロスに引っ張られ、クロスよれの原因となります	

注意

※上枠下地の上レール溝部分は、クロスを貼り伸ばして上レール溝に巻き込んでください。

□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2022/8更新

10 上枠クロス施工

- ① 上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。※天井高納まりの場合、標準設定の【天井ボード勝ち】納まりではジョイント部が発生しませんので不要です。
- 上レールが取付く場合の天井クロスはレール溝に巻き込み、上レールを取付けてください。



天井高納まり
【天井ボード勝ち】標準納まり



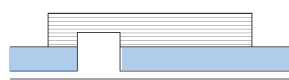
天井高納まり
【上枠勝ち】の場合



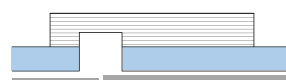
下がり壁納まり
■ : パテ
■■ : メッシュテープ

クロスよれ等を防ぐため、
【天井ボード勝ち】納まりを標準設定とします。

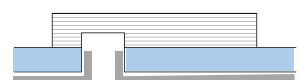
上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。



①レール溝をまたい



②溝の中央にカッターで
切れ目を入れる



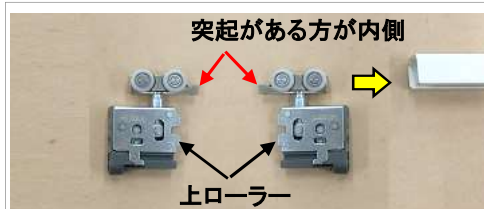
③クロスを溝に巻き込む

注意

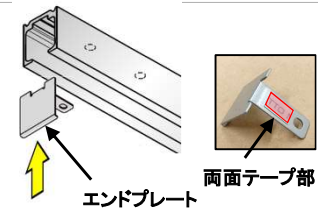
- ※戸尻側の上ローラーの向きに注意してください。(突起がある方が内側)
 ※トリガー取付穴には、上レールビスを固定しないでください。
 ※建具の開閉は勢いよくやりすぎると、金物が破損する可能性があるので注意してください。
 ※バンパーブロックを戸尻側に入れるのを忘れないでください。

11 上レール取り付け

- ① 上レールを取り付ける前に、あらかじめ上ローラーと上部ストッパーを上レール内部に入れてください。
- 上レール端部にエンドプレート両面テープで仮止めしてください。付属の取り付けビスで、上レールとエンドプレートを固定してください。



上ローラーを上レールに入れる

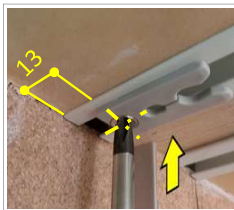


エンドプレートを両面テープで仮止めし、
上レールと一緒に固定する

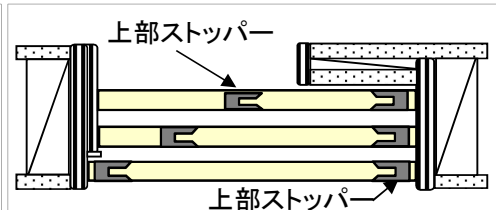
- ② 上部ストッパーのビスを緩め、プレートの向きを変えてください。
- 上部ストッパーを3枚の建具すべての上レール戸先側・戸尻側に取り付けます。(扉位置に合わせて、取り付けてください)



上部ストッパーのビスを緩め
プレートの向きを変える



上部ストッパーを上
レールに取付ける



上部ストッパーの取り付け位置

注意

- ※上部吊車の吊車の向きに注意してください。
 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性があるので注意してください。
 ※締め方が弱いと、建具の開閉時に上部ストッパーが動いてしまうことがありますので注意してください。
 ※ビスを締め付けすぎると上部ストッパーが破損しますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーで強く行ってください。

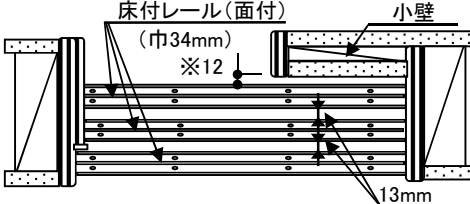
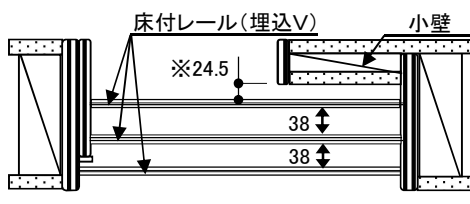
□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

forステルス枠

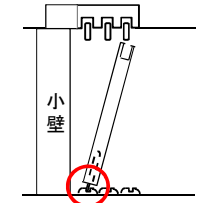
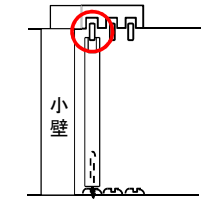
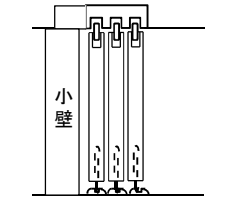
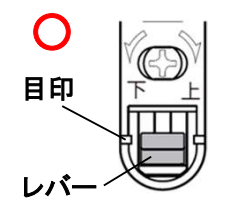
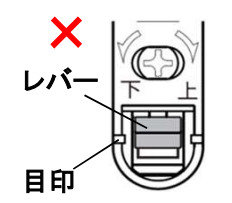
施工手順書2021/1作成

2022/8更新

12 床付レールの取り付け（金物は別途金物箱にあります）

① 【床付レール（面付）の場合】 床付レール（面付）を床に取り付けます。右図の所定位置に、付属のビスで取り付けてください。 ビスの取付順は、中央から始め両端側に止めて行ってください。			
	床付レール（面付）の取り付け位置 ※クロスの場合12mm、塗り壁の場合15mm		
【床付レール（埋込V）の場合】 床付レール（埋込V）に当て木をして、溝に埋め込んでください。 レールの長さが長いものが手前側、短いものが中央と小壁側になります。			
	床付レール（埋込V）の取り付け位置 ※クロスの場合24.5mm、塗り壁の場合27.5mm		
注意	※床付レール（面付）の取り付けの際、ビスを締め付けすぎるとレールが変形する恐れがありますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーで行ってください。 ※床付レール（面付）の場合、床材の伸縮によりレールが浮いた時は、一度取外して再取付してください。その際、必要に応じレール裏面に両面テープを付けてください。 ※床付レール（埋込V）の溝巾が広がってしまい、レールが外れてしまう場合には、両面テープ（現場手配品）をレールの底面に貼り付けて対応してください。		

13 建具の吊り込み

① 奥の建具から床付レールの溝に戸車をはめ込み、建具をを起こしていきながら上レールの上ローラーと、建具のケーシングを連結させます。				
	小壁側の建具を 床付レールの溝にはめ込む	上ローラーと建具の ケーシングを連結させる	3枚共建具を吊り込む	
上ローラーとケーシングを連結する際には、必ず最後まではめ込み、パチンという音を確認してください。				
	ケーシングと 上ローラーを連結する	パチンの音を確認	上ローラーのレバーの位置を確認する	
注意	※建具を持ち上げる際は天井に建具がぶつからない様に気を付けてください。 ※上ローラーとケーシングは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと、使用中、外れる恐れがあります。 ※上ローラーを取り外す際、素手で外れない場合は、プライヤー等工具を使用し取り外してください。 ※ソフトクローズ機能は付いておりません。 ※金物が破損する原因となりますので、過度な勢いで扉の開閉を行わないでください。			

□ 3枚引込み戸(上吊+床付レール 非連動) 【マルコ専用】

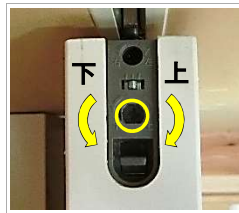
forステルス枠

施工手順書2021/1作成

2022/8更新

14 上ローラーの調整

- ① 吊り込み後に上ローラーにて調整をする際は、上下調整は下側のネジ、左右調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。



上ローラー
上下の調整



上ローラー
左右の調整

【調整範囲】
上方向3.0mm
下方向4.0mm
左右方向±2.0mm

注意

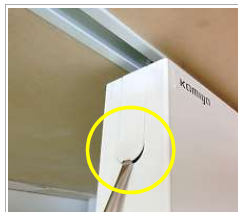
※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。
※戸先側と戸尻側の木口で調整方法が反転しますので、ご注意ください。

15 化粧キャップの取付け

全ての調整を終えたら、化粧キャップを取付けてください。
外す場合は、化粧キャップの溝にマイナスドライバー等を差し込み外してください。



化粧キャップを取付ける



※化粧キャップを外す場合
化粧キャップの溝に
マイナスドライバー等を
差し込み外す



化粧キャップの外し方のコツ

注意

塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

施工手順書2015/12更新

改訂2020/6

1-1 共通事項

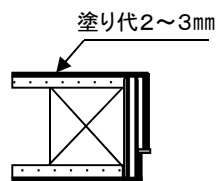
- ① 枠の取付け・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終ったら、幅木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をおすすめします)



接着剤全面塗布

下地の幅木欠き込み部分
(4×30)

下地の欠き込み部分に
はめ込むように取り付け

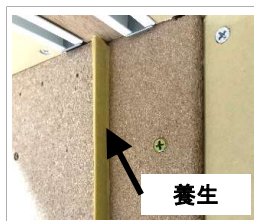


塗り代2～3mm

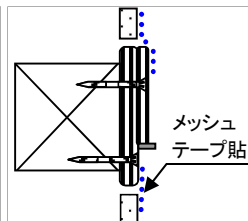
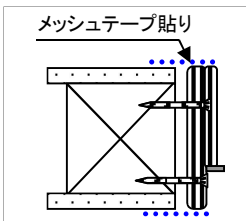
- 注意** ※出荷時には、幅木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く（4mm）欠き込んであります。（幅木の厚み7mm以上の対応は行っておりません）
※塗りの厚みは2～3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2～3mm出っ張るよう加工されています。
※天井はクロス貼り、下り壁は塗り仕上げの仕様となります。（下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります）

1-2 共通事項

- ③ 樹脂見切り・幅木・見切縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼ってください。



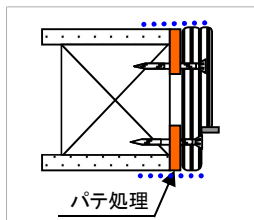
養生



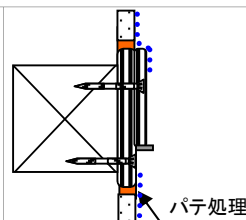
樹脂見切り等に養生

メッシュテープ貼り
(石膏ボードと枠をまたぐように貼る)

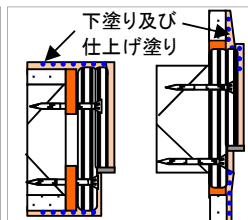
- ④ メッシュテープを貼った後、パテ処理（2度塗りを推奨）をしてください。パテが乾燥後、下塗り材（アク止め入り）をムラなく塗り、1～2日乾燥させてください（漆喰の場合は2度塗り）。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3～4日乾燥させてください。この時、ビス部分にもパテ処理を行ってください。



パテ処理



パテ処理



下塗り及び
仕上げ塗り

パテ処理（下地処理）
(2度塗りを推奨)

下塗り及び
仕上げ塗り

- 注意** ※ウォールスルーはガラスの押え縁を見切りに塗ってください。
※樹脂見切り・幅木・見切縁等は出の寸法が異なりますので、はみ出さないよう注意して塗ってください。
※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1～2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。

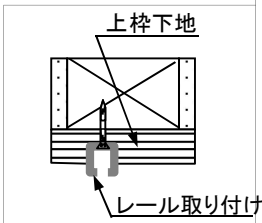
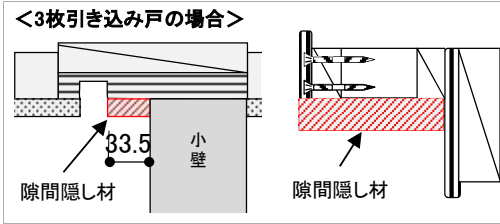
塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

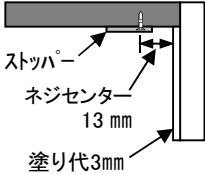
施工手順書2015/12更新

改訂2020/6

2-1 塗り壁施工前手順

①	レールの取り付け 下り壁仕様の場合、引き戸レール・折戸レールは塗り壁施工前に取り付けてください。				
	塗り壁施工前にレール取り付け				
②	隙間隠し材の取り付け 【天井ボード勝ち納まりの場合】 天井ボード勝ち納まりの場合は、上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を現場で正寸カットして取りつけてください。	<3枚引き込み戸の場合>  <3枚引込み戸の場合> 上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を取りつける ※塗り壁の場合は33.5mm、クロスの場合は30.5mm			
注意	※フリー折戸の下レール及び床付レールの取付け位置はクロス仕様と同じ位置になります。 ※塗りは下り壁の場合のみの設定です。天井納まりの場合はクロス貼仕様のため、クロス貼後にレールを取り付けてください。 ※見切縁はボードより2.5mmチリが出ますので、見切縁よりもはみ出さないよう、塗り壁施工を行ってください。				

2-2 塗り壁施工前手順

③	ストッパーの取り付け				
	3枚引込み戸の場合は塗り厚が3mmの場合、塗り仕上げ面からストッパーのネジセンターは12mmとなります。	天井部 ストッパー ネジセンター 13 mm 塗り代3mm			
	3枚引込み戸の場合のストッパー位置				